

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成25年第Ⅱ四半期（4月～6月）

設備投資：5期連続で増加し回復傾向が続く

採算状況：わずかながら悪化

資金繰り：わずかに改善

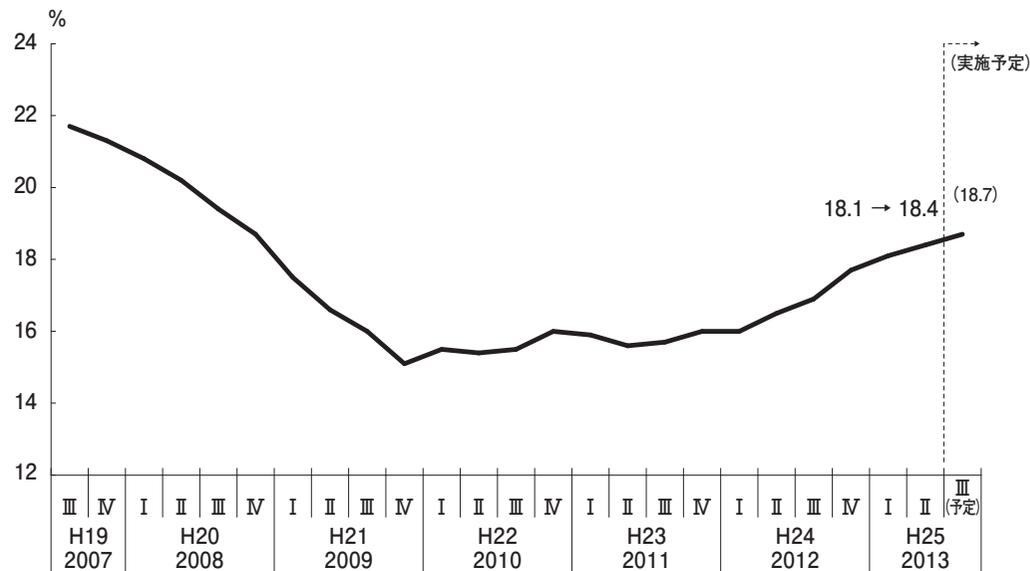
雇用人員：均衡に近づく

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成25年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は18.4%と、前期（平成25年1～3月）の18.1%からやや増加した。5期連続の増加で回復傾向が続いている。

また、来期（平成25年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.7%で、増加が見込まれている。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－



注）来期実施予定割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

業種別に、設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、8期連続の増加で回復傾向にあった製造業22.5%（前期22.9%）は0.4ポイントの減少となった。卸売業14.6%（同14.9%）も小幅ながら減少し慎重な姿勢が続いている。一方、小売業13.6%（同12.9%）は6期連続で、サービス業21.0%（同19.9%）は3期連続で増加し、業種により傾向が分かれた。

なお、来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、小売業14.8%とサービス業23.0%で、引き続き増加を見込んでいる。

《 概要 》

□設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期に設備投資を「実施した」割合は18.4%（前期18.1%）と5期連続で増加し、回復傾向が続いている。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.7%で、増加が見込まれている。

□採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲14.0（前期▲13.0）と1.0ポイント低下し、わずかながら悪化した。

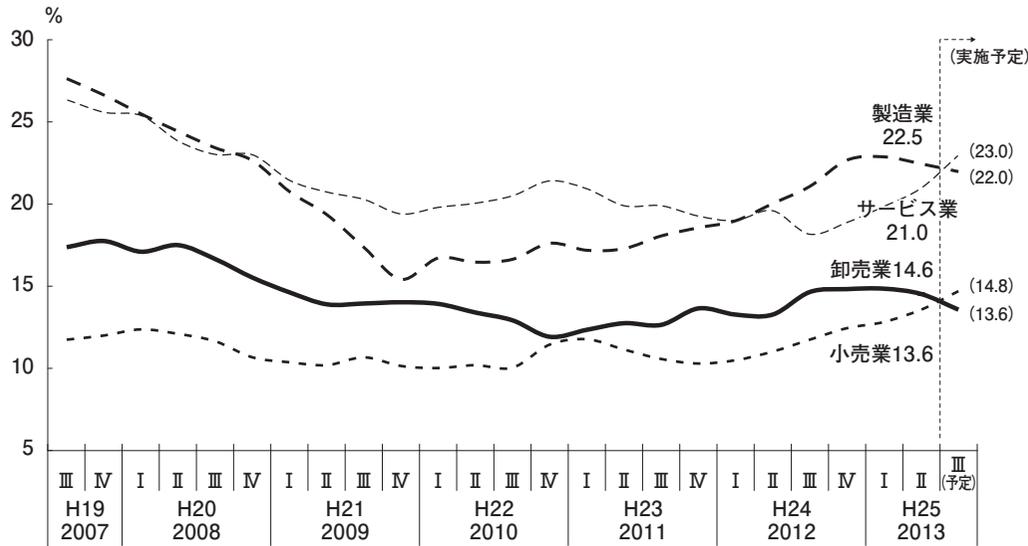
□資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲24.2（前期▲25.1）とわずかに改善した。

□雇用人員

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では1.1（前期2.0）と「不足」感をやや弱め、均衡に近づいた。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

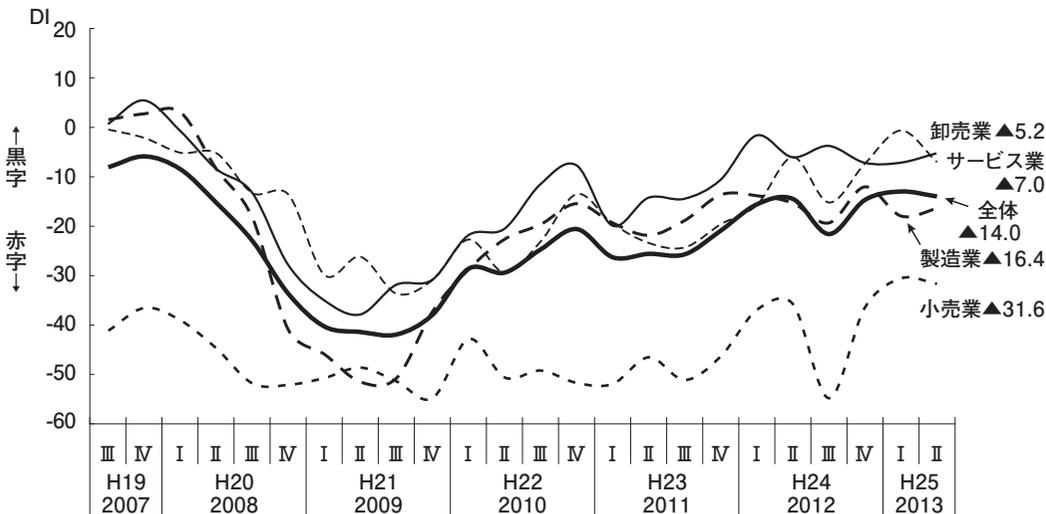


注) 来期実施予定割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲14.0（前期▲13.0）と1.0ポイント低下し、わずかながら悪化した。

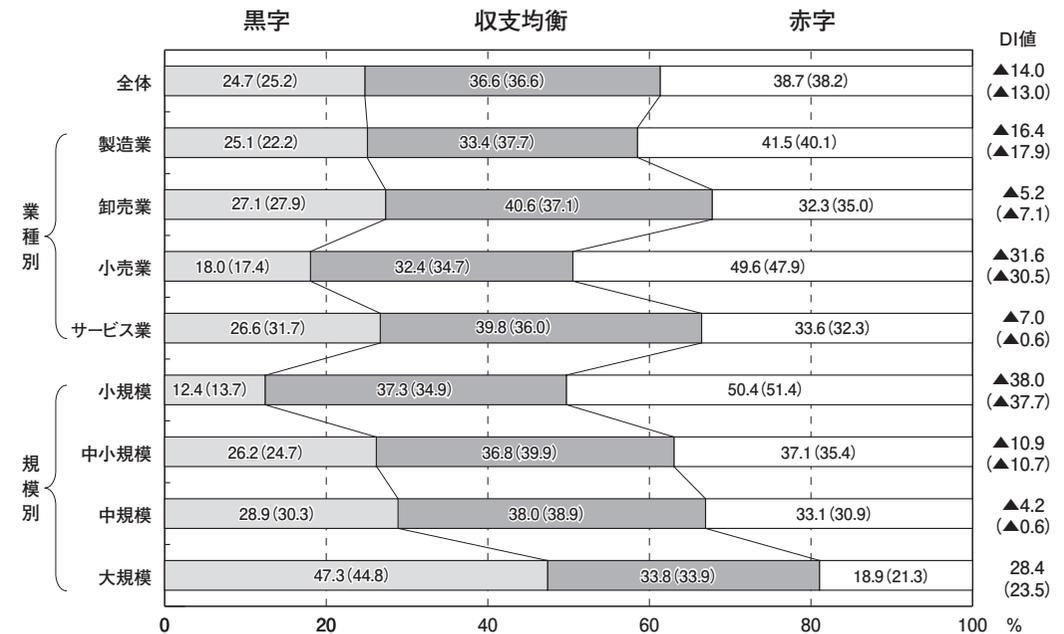
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、製造業▲16.4（前期▲17.9）と卸売業▲5.2（同▲7.1）はともに小幅ながら改善した。一方、小売業▲31.6（同▲30.5）とサービス業▲7.0（同▲0.6）は、2期連続の改善から下向き動きとなり、特にサービス業では、6.4ポイントと比較的大きく悪化した。

規模別にみると、小規模▲38.0（同▲37.7）と中小規模▲10.9（同▲10.7）はほぼ横ばいで推移し、中規模▲4.2（同▲0.6）は3.6ポイントの悪化となった。唯一採算DIがプラスとなっている大規模28.4（同23.5）は黒字企業が増加、赤字企業が減少して採算状況が改善し、他の規模との差を広げた。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



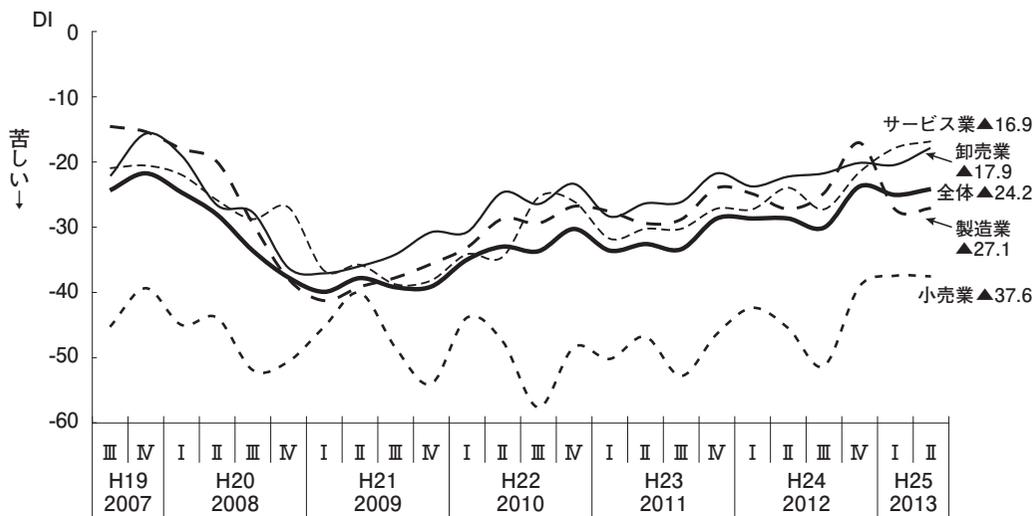
注) カッコ内は前期（平成25年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲24.2（前期▲25.1）とわずかに改善した。

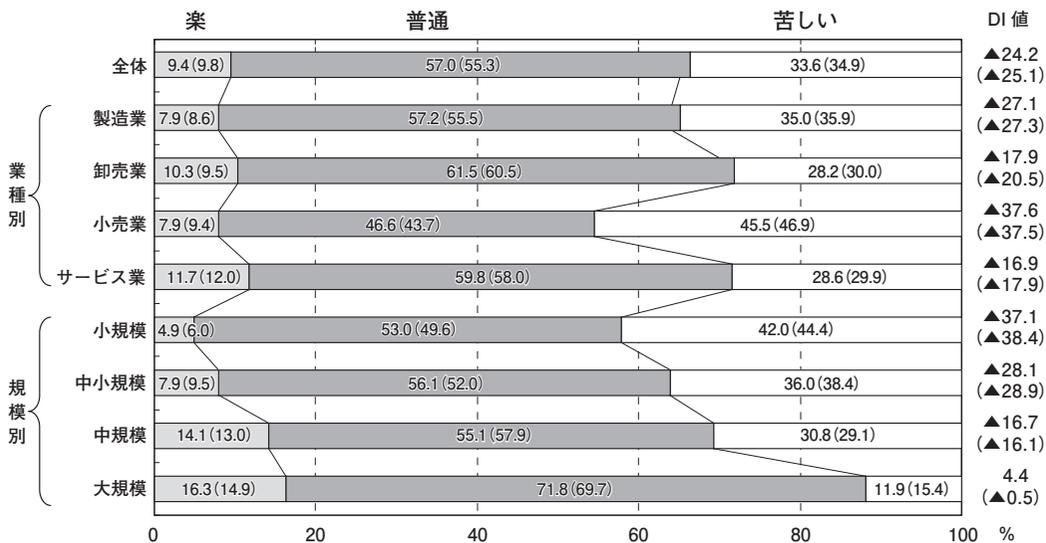
業種別にみると、卸売業▲17.9（同▲20.5）は2.6ポイントの改善となり、サービス業▲16.9（同▲17.9）も1.0ポイントと小幅ながら3期連続で改善した。製造業▲27.1（同▲27.3）と小売業▲37.6（同▲37.5）は、ほぼ横ばいで推移した。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、資金繰りDIは中規模▲16.7（前期▲16.1）のみわずかに悪化したが、他の規模は揃って改善した。特に大規模4.4（同▲0.5）は4.9ポイントと大きく改善し、DI値がプラスとなった。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

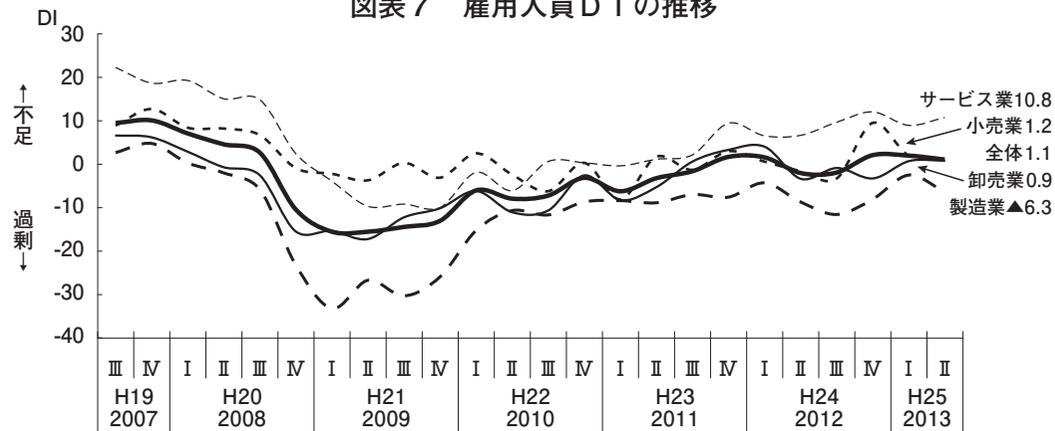


注) カッコ内は前期（平成25年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）でみると、全体では1.1（前期2.0）と「不足」感をやや弱め、均衡を示すゼロ値に近づいた。

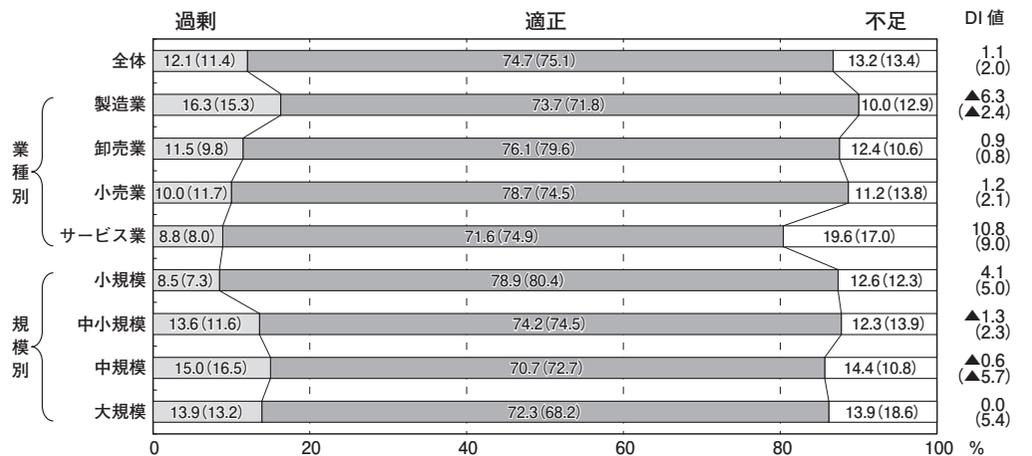
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、製造業▲6.3（前期▲2.4）は、唯一「過剰」が「不足」を上回っており、前期比で3.9ポイント減と「過剰」感を強めた。一方、サービス業10.8（同9.0）は1.8ポイント増加し「不足」感を強めている。

規模別にみると、小規模4.1（同5.0）のみ「不足」が「過剰」をやや上回っている。大規模0.0（同5.4）は「不足」感を弱め、DI値がゼロとなった。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) カッコ内は前期（平成25年1～3月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。